

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	相原 茉莉
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題 目 Is Physician Specialty Related to Decision-making for Do-not-attempt-resuscitation among Older Adults Admitted with Pneumonia? (担当医の診療科によって肺炎患者の DNAR の意思決定は変わりうるのか)
	掲載誌 Journal of Hospital General Medicine. 2023;5 128-137
	主査 國島 広之 副査 竹村 弘 副査 西根 広樹
[論文の要旨・価値]超高齢化が進展するなか、Code status 決定に関わる要因について検討した。川崎市立多摩病院において肺炎の診断により内科に入院した 65 歳以上 648 名を対象とし、後方視的に調査を行なった。入院後 72 時間以内のカルテ記載より DNAR 群 386 名と、DNAR の記載のないものを実診療上の FULL code 群 262 名に振り分けた。Code status を確認した医師の所属科が、救急科であった患者 325 名（以後 EM 群）、総合診療内科であった患者 158 名（以後 GM 群）、総合診療内科を除く内科系各科であった患者 164 名（以後 IM 群）に分類した。DNAR 群と FULL code 群の群間比較として Mann-Whitney の U 検定、ピアソンのカイ二乗検定を行い、期待値が 5 未満の場合は Fisher の直接確率検定を行った。Code status を目的変数、診療科を主な説明変数、患者背景等を共変量として、多変量ロジスティック回帰分析を実施した。本研究は生命倫理委員会の承認を得て施行した（承認 5211 号）。患者要因としては高齢、重度認知症、入院前の日常生活動作 ADL の低さが DNAR の有意な予測因子であった。性別、肺炎の重症度（CURB65）、入院前の生活場所については、多変量解析では条件による有意差を認めなかったが、サブグループ解析では、EM 群に比べて、IM 群、GM 群は全般に DNAR を選択する傾向を認め、女性、CURB65 高スコア、ADL 自立または車椅子、入院前に在宅の患者では、特にオッズ比が高くみられた。医師の経験年数とは関連はみられなかった。入院前が施設入所者においては、GM 群は EM 群と有意差がなかったが、IM 群は EM 群よりも DNAR を選択する傾向にあった。GM 群、IM 群では、ADL が自立していた患者においても、EM 群と比べて DNAR を選択する傾向にあった。本研究では肺炎患者の Code status の選択において担当医の専門分野ならびに患者背景等が患者の意思決定に寄与していることから、予め地域における Code status 決定支援の取り組みがより一層重要であることが示唆された。	
[審査概要] 審査は主査、副査 2 名、陪席者 2 名のもと行われた。プレゼンテーションおよび質疑応答が行われた。審査のなかでは、1. 各群の定義と解析、2. 医師の経験年数、3. 重症度や認知機能との関連、4. 意思確認のあり方など多岐にわたる質問が行われ、申請者は真摯かつ的確に回答した。	
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 背景から考察まで大変分かりやすく練られた構成の発表であり、申請者は本研究に関する幅広い知識・学識を有すると判断した。研究発表、質疑応答を通じて真摯な態度に終始し、誠実で大変礼儀正しく、学位授与に値する人物であると判断した。英語読解力は英文文献の一部を指定し、その場での和訳により十分な読解力があると判断した。	